（第3種郵便物認可）

エコバレーYAMANASHI

11 環境教育

自然は人を変える

八ヶ岳山麓の清里の森。木立の間を抜け、赤や茶色の落ち葉をカサカサと踏みしめながらNTT東日本の社員約40人がゆっくりと森の中に入っていった。

昨年10月上旬、北杜市高根町清里の財団法人「キープ協会」が行った環境研修。講師を務める協会の常務理事、川嶋直(56)は言った。

「森で拾った葉でじゃんけんをしましょう」

川嶋の提案に参加者は戸惑いの表情を浮かべた。だが、落ち葉の大きさや形の美しさ、色の濃さで勝ち負けを決めるじゃんけんに熱中するうちに子どものような笑顔に変わっていった。

翌日は森の中で撮影した写真をスライドにして、会社の環境のキャッチフレーズが中学生でも理解できるような説明資料を作った。参加者は環境分野などで企業の社会貢献活動を担当する社員たちだ。

環境保護を説くわけでも、自然の知識を教えるわけでもない。川嶋が実践する環境教育は「自然に触れ、自然を体感する」ことが目的だ。

自治体の環境担当者を集めて講演する川嶋さん（東京都内のホテルで）

＊

東大安田講堂事件が起きた1960年代、中学生の川嶋は「制服反対」と教師に議論を挑み、主張を飲ませた。都立高校でも生徒のリーダーとして運動し、授業を中断させた。「社会を変えたい」と行動した自分自身が「反社会的な存在」になっていることに気づいた。生き方を見直そうと、高校を3か月休学し、兄にキープ協会を紹介してもらい、ボランティアをした。

清里の自然の中で雨の日も風の日も重い木々を運び、牛の世話をした。そんな生活をするうちに、親に食べさせてもらいながら世の中に逆らってばかりいた自分を素直に恥ずかしいと思えるようになった。

手鏡を使って森を見るNTT東日本の社員ら。右から2人目は川嶋さん（NTT東日本山梨支店提供）

大学卒業後の80年、再びキープ協会の門をたたいた。「自然には人を変える力があることを多くの人に知らせたい」。熱く訴える青年を協会は採用した。

＊

川嶋は84年、環境教育事業の責任者となり、協会の宿泊施設を活用した自然観察ツアーを始めた。

ツアーで森林を散策していたときだ。月見草が花びらを開く瞬間を偶然目にした。「うわぁ……」。参加者全員が声を漏らした。

川嶋は思った。説明はいらない。感動は自然を語るのではなく、自然を感じることで伝わるのだと。それ以来、草木や鳥の生態を解説する情報を詰め込むツアーをやめた。代わりに森の中で詩を作ったり、楽器を奏でたりする企画を増やした。川嶋の手法は評判を呼び、2005年頃からは社会貢献を重視する企業からの研修も急増した。今では清里で行う年間100以上の環境ツアーや研修に計1万人以上が参加する。

NTT東日本山梨支店の伊藤勝利(39)は、川嶋の研修に参加した後、見過ごしていた花や木など身近な自然が気になるようになった。「自然を実感しなければ、紙の分別やエコカーの導入など手段ばかり考えても不十分だと気づいた。この発見を企業の取り組みに役立てていきたい」と語る。

川嶋の研修には「森の中で遊ぶだけだ」との批判もある。だが、川嶋はこう確信している。

「人は知識だけでは動かない。だが、花や木の美しさに触れ、それを守りたいと感じた人は一生、自然を大切にしようとする。環境は大切だと知っているだけでなく、環境を守るために行動する人を育てることが環境教育なのだ」

陽光が注ぎ、水が流れ、森に囲まれた「エコバレー」、山梨。その恵みにあふれた清里で人々の意識が変わっていく。この地は、地球環境の未来を考え、確かなものにする人間を育む可能性に満ちている。

（敬称略、佐藤友紀）

（おわり）

甲斐の公園前 女性突き倒される

(37)が、後ろから来た男に突き飛ばされた。男は女性

市、前橋市、水戸市、名古屋市のすき家や吉野家の各

とができなかった。

県警捜査一課幹部は「徒